

第13回 日韓アジア未来フォーラム
ポスト成長時代における日韓の課題と東アジア協力
プログラム

日時：2014年2月15日（土）午後2時00分～午後5時00分 その後懇親会
会場：高麗大学現代自動車経営館301号

主催：（財）未来人力研究院
共催：（公財）渥美国際交流財団 関ログローバル研究会（SGRA）

フォーラムの趣旨

「課題先進国」日本、そして「葛藤の先進国」とも言われる韓国が今までに経験してきた課題と対策のノウハウを東アジア地域に展開しようとするとき、どのような分野が考えられるだろうか。日本は、地震をはじめ自然災害への対策、鉄道システム、経済発展と環境負荷軽減及び省エネルギーの両立、少子高齢化への対応など、多くの分野において関連する経験や技術の蓄積、優位性を有している。さらに、日本以上の課題先進国となった韓国の経験や後遺症も、東アジア地域におけるこれからの発展や地域協力の在り方に貴重な手掛かりを提供している。本フォーラムでは、日本と韓国の経験やノウハウを生かした社会インフラシステムを、東アジア地域及び他国へ展開する場合、何をどのように展開できるか、そして、それが東アジアにおける地域協力、平和と繁栄においてもつ意義は何なのかについて考えてみたい。

14:00-14:10
司会：金 雄熙（キム・ウンヒ、仁荷大学国際通商学部教授）
開会の辞：李 鎮奎（リ・ジンギュ、未来人力研究院理事長/高麗大学教授）
挨拶：今西淳子（いまにし・じゅんこ、渥美国際交流財団常務理事）

北東アジアの気候変動対策と大気汚染防止に向けて

染野憲治（そめの・けんじ）

環境省地球環境局中国環境情報分析官/東京財団研究員

14:10-14:40
【基調講演】

中国、日本、韓国ともに温室効果ガスの大排出国であるが、排出実態と背景にあるエネルギー利用技術実態はそれぞれ異なる。また、気候変動枠組み条約における国際交渉の立場もそれぞれ異なる。現状では三カ国共に原子力発電に依存している点は共通しているが、これからのエネルギー計画については、それぞれ難しい局面を迎えていて、それぞれ明確な将来状を描きにくい状況にある。このような状況下において各国の専門家、市民運動家は比較検討を通じて相互に客観理解を深め、適切な対応策を探ることが求められている。

<p>14:40-14:55 【発表1】</p>	<p style="text-align: center;">北極海の開放と韓国・日本・中国の海洋協力可能性</p> <p style="text-align: center;">朴栄濬（パク・ヨンジュン） 韓国国防大学校安全保障大学院教授</p> <hr/> <p>地球温暖化により、今までは接近さえ難しかった北極海が次第に航行可能な海になりつつある。北極海の開放は、韓国のみならず、日本や中国に新たな航行路として注目を集めている。これらの国々は、東海や東中国海をめぐる、葛藤や紛争を引き起こしてきた。が、北極海をめぐるは新しい協力の可能性が芽生えている。この発表では、北極海をめぐるこれら三国の政策を検討した上で、互いの協力の可能性を問うてみる。</p>
<p>14:55-15:10 【発表2】</p>	<p style="text-align: center;">北東アジアの多国間地域開発と 物流拠点としての図們江地域開発</p> <p style="text-align: center;">李鋼哲（リ・コウテツ） 北陸大学未来創造学部教授</p> <hr/> <p>1990年代の初頭に、北東アジア地域経済圏（日本では「環日本海国際経済圏」と呼ばれた）の目玉プロジェクトとして脚光浴びていた図們江地域開発が近年に再び注目されるようになった。中国、北朝鮮、ロシアの国境を跨り、日本や韓国などが関心を持つ、この地域開発と物流拠点開発が、近年どのように変貌しているのかについて報告する。</p>
<p>15:10-15:25 【発表3】</p>	<p style="text-align: center;">ポスト成長時代における日韓の課題と 日韓協力の新しいパラダイム</p> <p style="text-align: center;">李元徳（リ・ウォンドク） 国民大学国際学部教授</p> <hr/> <p>日韓両国が迎えている 21 世紀の新時代は、冷戦期の二極化やポスト冷戦の多極化時代ではない、複合化の時代である。日韓両国が東アジアの平和と繁栄を追い求めるためには共同で複合ネットワークを構築することが共生のための戦略的な選択になる。新時代の日韓関係では、中国の急速な大国化や東アジア経済の著しい拡大を背景に、日韓両国が基本的な価値やルールの共有により、すべての分野にわたって全面的な協力を追求することが求められている。この報告では、日韓が東アジア地域及び他国へ展開する場合、何をどのように展開できるか、そして新時代における日韓両国の協力が東アジアにおける平和と繁栄においてもつ意義について報告する。</p>
<p>15:25-15:40</p>	<p style="text-align: center;">Coffee Break</p>

15:40-17:00	<p style="text-align: center;">パネルディスカッション Panel Discussion</p> <p>パネリスト 発表者 木宮正史（きみや・ただし、東京大学大学院総合文化研究科教授 安秉民（アン・ビョンミン、韓国交通研究院北韓・東北亜交通研究室長） 内山清行（うちやま・きよゆき、日本経済新聞ソウル支局長） 李奇泰（リ・キテ、延世大学研究教授） 他数名（未来人力研究院及び渥美財団 SGRA 関連研究者）</p>
17:00	閉会挨拶:

講師略歴

■ 染野憲治（そめの・けんじ）Someno Kenji

1991 年慶應義塾大学経済学部卒、同年環境庁入庁。環境省(庁)のほか厚生省、資源エネルギー庁、在中国日本大使館一等書記官を経て、現在は環境省地球環境局中国環境情報分析官。2011 年 10 月より東京財団研究員を兼ねる。

■ 朴栄濬（パク・ヨンジュン）Park Young Jun

2002、東京大学国際政治学博士

2003～、国防大学教授。

2010～2011、アメリカハーバード大学 US-Japan Program 招聘研究員

2009～2012、韓日新時代共同研究委員会韓国側委員

2012～ 韓国政治学会韓国一日本学術交流委員会委員長

2009、2011、2014、韓国国際政治学会安保・国防分科委員長

■ 李鋼哲（リ・コウテツ）Li Gang Zhe

1959 年中国吉林省延辺生まれ。北京で大学教員を経て、91 年に来日。立教大学大学院で修士・博士修了後、東京財団研究員、名古屋大学研究員、内閣府傘下の総合研究開発機構（NIRA）主任研究員などを経て 2006 年より現職。北東アジア地域協力を専門とする「東北亜人」。

■ 李元徳（リ・ウォンドク）Lee Won Deog

85 年ソウル大学外交学科卒業。87 年同大学大学院外交学科修士課程卒業（政治学修士号）。94 年東京大学大学院国際関係論専攻博士課程卒業（国際関係学博士号）95 年よりソウル大学国際地域院特別研究員。

96 年より世綜研究所研究委員。98 年より国民大学国際学部教授。03 年 3 月より韓国国家安全保障会議（NSC）諮問委員。ピッツバーグ大学アジア研究所客員研究員歴任。主要著書に、『韓日過去史処理の原点』（韓国語）、『日本右翼研究』（共著：韓国語）『脱冷戦期韓日関係の争点』（共著：韓国語）、『動揺する日本の神話』（共著：韓国語）など。

SGRAとは

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化に立ちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。

SGRAかわらばん無料購読のお誘い

SGRAフォーラム等のお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週水曜日に電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料で購読いただけます。購読ご希望の方は、SGRA事務局 (sgra.office@aisf.or.jp) 宛てメールアドレスをお知らせください。